



2025年9月15日発行

“聴くことのできる人を育てる” NPO 法人

P.L.A ニュース 第72号



パートナーシップ アンド リスニング アソシエーション <http://pla.keicho.org/>

発行者 NPO 法人 P.L.A 事務局：〒101-0046 千代田区神田多町2丁目7番3号 三好ビル 801号室

[平日：月・水・金 (11:00~16:00)] Tel&Fax 03-3255-2882 E-mail : info@pla-keicho.org

第15回傾聴ボランティア交流会のご案内 * P.L.A 創立20周年記念 *

日時 2025年11月3日(祝日) 13:00~16:20 (受付開始 12:30)

場所 東京体育館 サブアリーナ 第一会議室 参加費：500円

・JR総武線 千駄ヶ谷駅下車 徒歩1分

・都営大江戸線 国立競技場駅下車 A4出口 徒歩1分

内容 傾聴ボランティア&傾聴ボランティアグループの交流

テーマ 傾聴ボランティアの力 ~ 継続するために... ~

コロナ禍は地元の間人関係を大きく変えたと言われています。昨年の孤立死が2万1千人と報じられ驚きました。近所にどんな人が住んでいるかもわからなくなりつつある暮らしに考えさせられます。人と人をつなぐ「傾聴」の力が求められるのではないのでしょうか。

今回 P.L.A 創立 20 周年の交流会を開催するにあたり、活動を続けて来られたグループの方にパネリストをお願いしました。テーマは「傾聴ボランティア力を発揮しながら、継続するには」です。参加された皆さんとの情報交換もあります。一人ひとりが地域社会で、傾聴ボランティアとして、生き生きと活動できるヒントが得られますことを願っています。

プログラム

- | | |
|----------------|-------------|
| 1. 開会の挨拶 | 13:00~13:05 |
| 2. 20周年を迎えて | 13:05~13:15 |
| 3. パネルディスカッション | 13:15~15:45 |

テーマ： ① 私が継続できているコツ ② これからの課題

- パネリスト**
- 昭島市・昭島傾聴ボランティア「さざなみ」
 - 荒川区・傾聴ボランティア「ダンボの会」
 - 中野区・傾聴ボランティア「きくぞう」
 - 練馬区・傾聴ボランティア「こだまの会」



----- < 休憩 14:15~14:25 > -----

- | | |
|-----------------|-------------|
| 1) グループ話し合い (1) | 14:25~15:05 |
| 2) 質疑応答コーナー | 15:05~15:25 |
| 3) グループ話し合い (2) | 15:25~15:45 |
| 4. 全体会 (グループ発表) | 15:45~16:15 |
| 5. 閉会の挨拶 | 16:15~16:20 |

“P.L.A 創立から20年を経て、思うこと、”

* NPO 法人 P.L.A 初代代表 後庵正治

「傾聴」というキーワードを軸として集い、人と人がめぐり逢い、受講生も講師も互いに尊重し、その出逢いを喜び生き合うことを目指して早や20年になります。さまざまなことが思い出されます。その出逢いを一つ一つ思いうかべるとき、喜びが沸いてきます。

これからもこの営みが続くことを信じたい。一日一日は変化しています。昨日まで通じ合えなかったことが、今日は互いに認め合い、許し合い、感謝し合うとき、その瞬間に喜びを見出します。そして明日が明るく見えてくる。人と人が生き合うとき、傾聴姿勢は欠かせない姿勢です。これからもあらゆる分野で「傾聴姿勢を学びたい、取り組みたい」という方が増えることを確信しています。互いに尊重し合いたいという関係は消えないでしょう。それらを信じ、今日も新しく出逢う歩みをしたい。感謝です。

* NPO 法人 P.L.A 初代副代表 小谷津光子

全ての始まりは、いのちの電話のボランティアからです。リーダー研修を経て、初めて持った継続グループに、後庵さんがおられました。なぜか私達のグループになじんでいただき、いのちの電話の創立当時のことを話していただくうち、メンバーと打ち解け、後庵さんの故郷の種子島まで皆で旅行したのも、今となっては良い思い出です。

また創立者のお一人のヘットキャンプさんにお会いしたい気持ちが強くなって、とうとう皆なでドイツまでお訪ねしてしまいました。ドイツのいのちの電話を見学して、この活動が特別なことではなく、日常生活の一部になっていることを改めて認識しました。

私にとって、何よりの収穫は素敵な人たちと出会えたことです。そこから P.L.A の活動が生まれ、現在に至っているのです。人の話を聴くのは、容易なことではありません。常に自分の内面を見つめ、冷静に謙虚に対応すること。いつまで経っても、これで良しとはなりませんね。皆さまの益々のご活躍を祈っております。

* NPO 法人 P.L.A 初代研修担当理事 生木ヨシミ

「傾聴」というキーワード「相手に寄り添い、言葉とその言葉に込められた思いを受け止め理解しようとする態度」を基本として、この20年の歩みを続けてきました。

そして今、しきりに思うことがあります。活動の場ではいろんな理由で言葉によるコミュニケーションが難しい人に出会います。実は、この方たちこそ、胸の内に豊かな感情を抱えていることが多いのではと、しばしば思うことがあります。心を寄せ、自分のことを理解しようとして関わってくれる人が傍にいて、生きているという実感とともに、自分の存在が認められ、大切にされていると感じていただけるのではないのでしょうか。

また、辛さにうちのめされて絶望の淵にいる人と向き合うと、私たち自身も発する言葉を失います。そんなとき言葉を交わさずとも、相手を気遣い、心を寄せながら、傍に居続けることができれば、相手の気持ちは穏やかになり、周りが見えてくることにつながると思います。「寄り添う」とは、「言わなくても黙っていても傍に居続けること」なのだと。

予告



第18回フォローアップ研修「認知症の世界～どう受け止め、向き合うか」の報告は、P.L.A ニュース次号（2026年1月15日発行）で報告いたします。お楽しみに!!